
サトシ & カスミのライモンシティでの深夜デート

阿部 裕治

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

サトシ&カスミのライモンシティでの深夜デート

【Nコード】

N7603X

【作者名】

阿部 裕治

【あらすじ】

サトシとカスミの深夜のデートです

（前書き）

この小説は、サトシとカスミが恋人関係になつてゐる説定です

サトシ一行はライモンシティ出発を翌日に控えポケモンセンターにて一晩を過ごしていた。

しかし全員寝てる事を確認するとサトシは、部屋を出てポケモンセンターの裏口から出ると走り出し噴水のある所まで行った。

「カスミ」サトシ

「サトシ！」

サトシが深夜出掛けたのは、かつての旅仲間でありハナダシティジムリーダーでサトシの恋人のカスミに会うためだった。

「カスミお待たせ」サトシ

「ううん。そこまで待ってないわ」カスミ

「会いたかったぜ」サトシ

「あたしもよ。サトシ」カスミ

サトシに抱き着いてきた。

それをやんわりと受け止めて抱き締めてあげた

「サトシしてくれないの？」カスミ

目を閉じて唇を出す。

「わかってる。」サトシ

サトシも目を閉じて

「カスミ大好きだぜ」

と言ってキスをする

その周りには、甘いオーラが漂っていた

キスの後

「いつもみたいに抱き締めてよ」

とカスミが言うからサトシは、さっきと同じようにカスミにする。

「ねえサトシ」カスミ

「何だカスミ」サトシ

「アイリスって子とは、何も無いよね」カスミ

「何だ？心配か？」サトシ

「うん。」

カスミは頷く。

「じゃあさ。俺のさグローブしてる所にカスミのキスマーク点けてくれよ」

そう言々とサトシは、両手のグローブを外す。

「良いの？」

カスミが聞いてくる。

「心配なんだろう？」サトシ

「うん。・・・じゃあするよ。」カスミ

カスミは両手のグローブをしていた所にどんどんキスマークを点けて行く。

5分後

「カスミ気が済んだ？」

とサトシが聞いてきた。

「うん」

カスミがそう言々とサトシは、グローブをはめ直す。

「カスミ、この後どうするか？」

サトシが聞く。夜中なのでお店もやっていない。

「今日は、こうしていたい」

とカスミが言ったのでこの状態が続く

約30分後

「ねえサトシ」

「何だカスミ」

「あたしさ、サトシに食べて貰いたくて作ってきたんだけど食べてくれるかな？」カスミ

「マジ！サンキュー」

サトシが嬉しそうに言う。

さて皆さんご存知の方も多いと思いますがカスミは、料理が苦手です。

しかし

「カスミ一回離すぜ」サトシ

「サトシの分は、あたしが食べさせてあげるわよ。」

「え？いやいいってば。」

「遠慮しないでいいわよ。・・・はいぁーんvv」

「やれやれ・・・ぁーんvv」

何だかんだ言っても、サトシもかなりノツていた。

傍から見れば、ラブラブカップルにしか見えない光景であったが。

「・・・お味はどうお？」

「（モグモグ・・・）ん！おいしい！カスミの愛情がこもってるからかな？」

「んもう！サトシったら上手なんだからぁ！」

・・・訂正。どこからどう見ても、「超」ラブラブカップルにしか見えない。

「サトシイ、ジュース飲む？」

「うん、ちょっと喉が渴いたから一杯くれないか？」

「解った、ちょっと待ってて。」

カスミは、鞆の中からパックのオレンジジュースを出す。

「あれ？飲ませてくれないのか？」

「ちゃんと飲ませてあげるわよ。こうやってね。」

そう言うとかスミはジュースを口に含み、口移しでサトシに飲ませた。

「んっ・・・（ゴクン）・・・ふうっ、何かいつもよりもおいしく感じたぜ、カスミ。」

「そう？じゃあもう一口・・・」

「おっと、今度はオレが飲ませてやるよ。」

今度はサトシがジュースを口に含み、カスミに口移しで飲ませた。

「（ゴクン）・・・ほんとだ。いつもより、何ていうか・・・甘くておいしい。」

「だろ？」

この光景が約1時間続いていた。

「サトシ、どうだった味」カスミ

「この前より美味しかったぜ」サトシ

「良かった。ママさんに教わりに行つて」

どうやらカスミは、ハナコママに料理を教わつたらしい。

そして2人は見合つと笑い出した。

「そういえばママだけだもんね」サトシ

「そうね。ママさん以外」には、内緒だもんね。」カスミ

その後は、ただ抱き合っているだけだった。

そうして夜明けは近付き別れの時間が迫ってきた。

「じゃあなカスミ」サトシ

「・・・うん」カスミ

「俺だつて別れるのは辛いけどまた来いよ」サトシ

「うん」カスミ

「連絡さえくれれば今日みたいにくるからな」サトシ

「じゃあね。サトシ」カスミ

「気をつけて帰れよ」サトシ

最後に別れのキスをしてお互いそれぞれの場所に帰って行った。

（後書き）

カスミがハナコママに料理を習ってる説定にしてみました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7603x/>

サトシ&カスミのライモンシティでの深夜デート

2011年10月20日17時10分発行